

「やさしい日本語」講座

来年度から発行を検討している「VIVA!ひめじ」のやさしい日本語版を作成するボランティアの募集と育成、およびやさしい日本語の普及を目的とし、3月13日（土）と14日（日）の2日間にわたって、やさしい日本語講座を開講しました。定員50名に対して59名の参加希望がありました。会場が十分な広さだったため、全員受講していただきました。

13日は、神戸YWCA 学院主任講師の福井武司氏から、基礎編として話しことばの“やさしい日本語”とは何かを学びました。コミュニケーションを取る道具として、やさしい日本語がどれだけ役に立つかを理解し、また敬語や方言、カタカナ語、擬音語・擬態語などが外国人にとって難しいことばだと知りました。実践時間では、普段使い慣れていることばを、やさしい日本語にするのがいかに難しいか体験しました。さらに、外国人に話しかけるときは、丁寧＝親切ではなく、丁寧に話せば話すほど理解してもらえなくなると知り、今後は気を付けようという意見が聞こえました。



14日は、応用編と実践編として、神戸大学名誉教授の水野マリ子氏から、主に書きことばとしてのやさしい日本語を学びました。まず、昨日学んだ話しことばと違うポイントなどの説明を受けました。その後、実際のVIVA!ひめじの原稿を用いて班ごとに異なる課題に取り組みました。2日間の講座で学んだ知識をフル活用して、同じ班の人と協力しながら、

日本語をやさしい日本語に変えていきました。誌面をやさしい日本語で作成する際には、話すときと違ってスマホで画像を見せたりジェスチャーで情報を補ったりできないため、昨日より難しく感じました。試行錯誤して作成した後、講師からの講評とともに模範解答が配付されました。2日間通して学んだのは、やさしい日本語に答えはないということ、また座学だけでなく、話す・書く両方とも実践の時間があつたことで、学んだ知識がより身に付きました。

受講者のみなさんからは、参考になった、悩んでいたことが解決した、学んだことを活かしたいなどの意見をいただきました。講座終了後のボランティア登録会では、17名がやさしい日本語ボランティアとして登録しました。